

科目名	<b>国際経済学 I</b>	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	<b>International Economics I</b>	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	さかもと こういち	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	<b>坂元 浩一</b>	修得単位	<b>2単位</b>	
授業のテーマ	国際経済取引について、仕組みと現状を理解する。			
到達目標	<p>この授業の単位を修得した場合、次のような知識・能力を修得できます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本の国際経済取引の全体と主な活動(貿易と投資)を十分に理解できるようになります。</li> <li>2. 世界経済や主要国の経済の動向を知ることができます。</li> <li>3. 経済関係の新聞や雑誌を読めるようになります。</li> </ol>			
授業概要	<p>本講義では、国際経済取引の全体像として国際収支を学び、その構成要素である外国貿易と外国(海外)直接投資の理論を中心に学びます。必要に応じて、歴史と政策を説明します。教員の実際の海外での経験を交えながら、理解を深めてもらいます。他の構成要素や分野については、国際経済学IIで扱います。</p>			
授業計画				
第1回	イントロダクション(国際経済の内容、アプローチ)			
第2回	世界経済、地域経済、日本経済の現状			
第3回	国際収支I(基礎事項とトレンド)			
第4回	国際収支II(捉え方、枠組み)			
第5回	国際収支III(基礎事項とトレンド)			
第6回	為替レートI(基礎事項とトレンド)			
第7回	為替レートII(理論)			
第8回	為替レートIII(理論と政策)			
第9回	外国貿易I(基礎事項とトレンド)			
第10回	外国貿易II(理論)			
第11回	外国貿易III(理論と政策)			
第12回	外国直接投資(FDI)I(基礎事項とトレンド)			
第13回	外国直接投資(FDI)II(理論)			
第14回	外国直接投資(FDI)III(理論と政策)			
第15回	まとめ			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業で配るプリントや課題に十分にに取り組んでください。(1時間程度)</li> <li>2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。(0.5時間程度)</li> </ol>			

履修条件 受講のルール	ミクロ経済学とマクロ経済学を履修していることが望ましいです。しかし、未履修でも本授業に積極的に取り組むことにより、好成績で単位を取得できます。
テキスト	なし（下記の『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』に準拠して進めます）
参考文献・資料	坂元浩一『教養系の国際経済論—総理解から次の一歩まで—』（電子書籍）大学教育出版、2012年。 坂元浩一『世界金融危機—歴史とフィールドからの検証—』大学教育出版、2010年。 坂元浩一『国際協力マニュアル—発展途上国への実践的接近法—』頸草書房、1996年。
成績評価の方法	【小テスト・レポート(40%)、定期試験(60%)】 上記評価項目を基にして総合的に判断します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は、原則としてその回は欠席とします。 ・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解および予習・復習が充分であるかを確認するため、授業中にミニ・テストを行うことがあります。
オフィスアワー	毎週火曜日・金曜日 14:30～16:30 これ以外の時間帯も、在室時は可能な限り対応します。
成績評価基準	平成28年度（2016）以降入学した学生 秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下) 平成27年度（2015）以前に入学した学生 優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
学生への メッセージ	これだけ国際化が進んだ日本および世界を、正しく理解できるようになってください。国際経済取引の理解は、企業での仕事では当然必要であり、また日々の生活でも役に立ちます。 教員の数多くの海外経験を聞くことにより、皆さんが国際経済をより身近に捉えられるようになると考えます。